

【Insectopia (インセクトピア)】とは： insect (虫) と utopia (理想郷) を掛け合わせた造語  
『蟲たちを含む、地球上に生きる全ての仲間が快適に生きることができる世界』を創るため、SHELLグループがお届けする情報発信ニュースレター。



## ダ・ヴィンチの理想都市から考える現代都市のすがた

モナ・リザや最後の晩餐などの絵画で広く知られるレオナルド・ダ・ヴィンチですが、建築家としても創造力に富んだ才能が発揮されています。ダ・ヴィンチが理想とする都市の姿と現代都市への影響をご紹介します。

### ダ・ヴィンチの理想都市とは

1484年から翌年にかけてミラノを襲ったペストは5万人以上の人命を奪いました。ダ・ヴィンチは「このペストの蔓延は、密集して住む都市の不衛生な状態が原因である」と考え、公衆衛生学的な観点からミラノの都市改造について思いをめぐらしたといえます。そして1490年代前半に、「10個の街に、54戸の家と、3万人の住人を入れなさい。その家は、部屋がうまく配されて、風通しがいいようにし、そして、ヤギのようにひしめき合い、異臭が充満し、死に至るペストの種を撒き散らす人々の集まりを解きなさい」と唱え、後に、円形に纏まった街を拡張し、市壁外に環状の新市街地として10の都市の建設を計画しました。ダ・ヴィンチが考えた「衛生都市」は、中央に大きな広場があり、回廊がめぐらされ、道路、運河が対症的に配されています。そして道路の幅は、家の一般的な高さと同様、内部に『風、光、清潔さ』が行き渡るようにする提案でした。このダ・ヴィンチのアイデアは彼自身の生涯では実現されなかったものの、その後の都市計画や建築に影響を与え、現代の都市設計においても一部のアイデアが参考にされています。

### ダ・ヴィンチが現代都市へ与えた影響

近代の都市計画は、住宅地域、商業地域、工業地域、農業地域などの機能分散型の都市計画が主流で、これはダ・ヴィンチの理想都市の発想を取り入れたものといえます。アメリカの都市郊外で多くみられるゾーニングと呼ばれる都市計画はそのひとつです。ゾーニングとは、異なる活動や建物が混在することで発生する問題を回避し、地域ごとに適した建築規制や用途を割り当てる都市計画の手法とさ

れています。アメリカの都市郊外では、低密度の土地開発計画を進め、都市からの混雑や騒音を避けつつ住民に静かな環境と広大な敷地を提供することを目指しました。ゾーニングは、アメリカの都市計画と土地利用において重要な役割を果たし、都市全体の発展と個々の住環境の向上、この2つのバランスを上手にとっていると言えます。

### コロナ禍で重要視される「ゾーニング」

昨今のCOVID-19の流行は、一節によると壊されたゾーニングが背景にあると言われていました。野生動物は多くのウイルスを保有している為、人間がウイルスを持つ野生動物に近づく事があれば人間に感染して体内で一気に増加する。この事から、COVID-19は野生動物から発生したウイルスであると考えられています。かつて、野生動物と人間が棲む社会の間には互いが深く干渉し合わないよう棲み分けのゾーニングが成立していました。しかし現在では、自然破壊や里山放棄などによってゾーニングが維持できなくなり、野生動物と人間社会の接触機会が増加しています。また、人間が野生動物の社会に介入し過ぎているという事も懸念されています。今こそ、自然と人間との関係性をリフレーミングし、“ゾーニング”を再設計する必要があるのです。

シェルグループのテーマの1つに『ヒトと虫の棲み分け』があります。これからも、生態系を維持しながら持続可能な都市づくりを目指し、都市計画や建築計画において最適なゾーニングができるよう、今後も取り組んでいきたいと思えます。



## 公衆浴場のレジオネラ属菌

### レジオネラ属菌の感染リスク

レジオネラ属菌は水に関連する施設で感染を引き起こす可能性のある細菌です。特に旅館や入浴施設などの公衆浴場では、大規模感染の発生事例がある為、感染予防の適切な管理と衛生対策が必要です。レジオネラ属菌はレジオネラ症の原因となる菌で、レジオネラ肺炎を引き起こす可能性があります。レジオネラ肺炎は、悪寒、高熱、全身倦怠感、頭痛、筋肉痛などが起こり、呼吸器症状として痰の少ない咳、少量の粘性痰、胸痛・呼吸困難などが現れ、症状は日を追って重くなっていきます。腹痛、水溶性下痢、意識障害、歩行障害を伴う場合もあり、最悪は死に至る場合もあります。健常者も感染の可能性はありますが、主に糖尿病患者、慢性呼吸器疾患患者、免疫不全者、高齢者、幼弱者、大酒家や多量喫煙者は罹りやすい傾向にあります。

### レジオネラ属菌の検出事例と感染者数

福岡県の某老舗旅館では、週1回以上必要な大浴場の湯の取り換えを年2回しか行わず2022年11月、県の調査で基準値の最大約3700倍のレジオネラ菌が検出されました。来訪者が体調不良を訴え、医療機関を受診した事から、レジオネラ属菌が原因と判明しました。施設責任者が「大した菌ではないという認識があった」と釈明している事から、レジオネラ属菌の感染リスクを軽視していたと考えられます。その他、国立感染症研究所の調査によると2021年度は2,112名がレジオネラ属菌に感染し、内、82名の死亡が報告されています。また、近年では、2022年10月から全国旅行支援が始まった影響で観光地の利用客増加とともに、温泉・入浴施設の衛生管理不足による、レジオネラ属菌の検出が各地で報告されています。



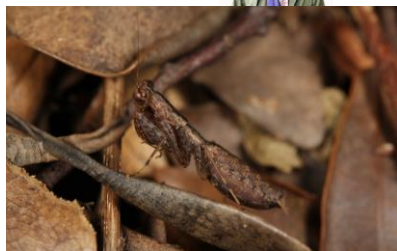
### レジオネラ属菌の繁殖防止

入浴施設などレジオネラ属菌の繁殖防止対策には、建築物衛生法や公衆浴場法に基づく水質検査の徹底が重要です。また、定期的に湯船、シャワーヘッド、浴槽など、水が噴出される設備や器具の清掃、消毒、保守点検も必要不可欠になります。貯湯タンクを設けている場合は、定期的な清掃や停留水の排水を行い、清浄な状態を維持し、湯温は60℃以上に保つことで、レジオネラ属菌の繁殖・混入を防ぎます。具体的な法的要件や規制は、地域によって異なるため、関連する地方の規則や法律を確認し、適切に管理していく事が大切です。シェルグループでは水質検査室を設置し、採水から検査まで自社で行っています。（お客様に採水いただく場合もあります）レジオネラ属菌の繁殖防止は、管理者の認識と対策が重要な為、水質検査室からの定量データとスタッフの豊かな経験をもちに丁寧に説明しています。私たちは、水質管理のサービスを通して、安心で安全な環境と街づくりを引き続き目指していきます。

## 今月のInsect



写真/解説  
中峰 空  
8thCAL技術顧問  
筑前公園昆虫館館長



### ヒナカマキリ

(雛螳螂)

カマキリ目コブヒナカマキリ科  
学名：Amantis nawai

照葉樹林にすむ、日本で一番小さいカマキリ。最大でも18mmほど。成虫になっても翅が短いままで飛ぶことができない。秋になると照葉樹林の林床を走り回る姿や神社の壁、園路の手すりなどにとまっているところを見ることが多い。

## Information

### ● 害蟲展 X(Twitter)更新中！

害蟲展の様々な情報や、蟲トピックスなど、最新の情報を随時発信中。この時期、展示会に繋がる情報も多くツイートしています！ アカウントフォローして最新情報をGet！▶▶▶



### ● Pick up 展示会情報

害蟲展season4（※弊社主催）  
白馬村 Re:Public（長野）※長野県北安曇郡白馬村北城7078  
会期：9月30日(土)～10月9日(祝)



↑  
害蟲展HPは  
こちら！

### Japan Home & Building Show2023

(※弊社は出展しておりません。)  
会期：2023年11月15日(水)～11月17日(金)  
会場：東京ビッグサイト東展示棟

### Insectopia インセクトピアの配信登録はこちらから！

QRコードを読み取り後、登録フォームよりご登録ください。  
ニュースリリースや採用情報、イベントなどの最新情報を  
配信中です。

